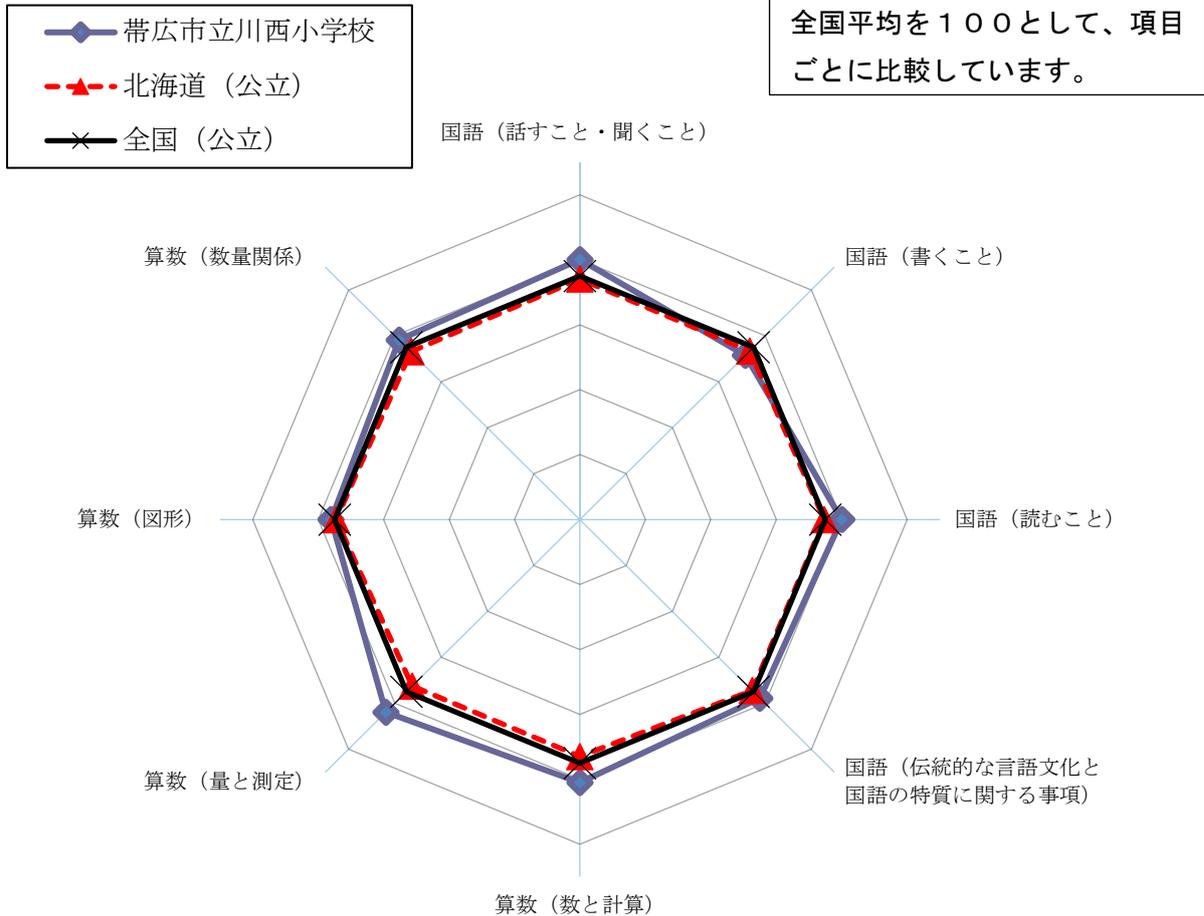


令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果について

帯広市立川西小学校



本校児童の傾向＜国語＞

平均正答率は全道・全国を上回る。

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。【問題例①】
- 目的に応じて、文章を概観して効果的に読むことができる。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認するための質問をすることができる。
- △文の意味に合った熟語を書く。【問題例②】
- △解答に必要な部分を資料から抜き出し、「疑問に思ったことの答えになるように考えて書く」【問題例③】、
- △「報告する文章にふさわしい表現で書く」【問題例④】などの、複数の条件付きの設問に答える。

【問題例①】 領域・内容 [第5学年及び第6学年] C 読むこと

【資料】 食べ物の保存について書かれた本のページ

食べ物を保存する

◆ 食べ物は生命の源

生き物は、食べ物がなければ生きていくことができません。食べ物を安定して確保することは、生きる上で欠かせないことです。

例えば、リスは秋になるとどんぐりを土にうめ、食料をたくわえます。クマはたくさんの食べ物を食べ、体に栄養をたくわえて冬眠に入ります。動物たちは、このようにして生きぬいているのです。

わたしたち人間は、食べ物を保存する技術がなかったころは、いつでもおなかを満たすことができるというわけではありませんでした。季節や天候などにより、農作物や肉、魚などが手に入らないことがあったからです。また、運よく大量の食べ物が手に入ったとしても、そのままにしておく、くさって食べられなくなってしまうこともありました。そのため、人々は昔から様々な方法で食べ物の保存を試みてきました。失敗をくり返しながらよりよい保存方法を獲得し、次の世代へつないできたのです。

◆ 保存のふしぎ

食べ物がくさる主な原因は、食べ物をくさらせる細菌が増えることです。その細菌は食べ物の水分を利用して増えます。そのため、水分が少なくなれば細菌は増えにくくなり、食べ物はくさりにくくなります。

では、水分を少なくするにはどのようにしたらよいのでしょうか。例えば塩や砂糖を使うという方法があります。塩や砂糖には水分を吸い出すはたらきがあるので、塩や砂糖を使ってつけることで水分を少なくすることができるのです。また、かんそうさせるという方法もあります。日光や風に当てて干すことで、水分を蒸発させることができます。

これらの方法を使った保存食には次のようなものがあります。

塩を使う

- ・山菜の塩づけ
- ・豚肉の塩づけ
- ・魚の塩づけ

砂糖を使う

- ・果物の砂糖づけ
- ・ジャム

かんそうさせる

- ・切り干し大根
- ・かんぴょう
- ・こんぶ

- (1) 「フートの一部」の **ア** には、疑問に思ふ内容として最も適切なものを、次の1から書きましょう。
- 1 水分が多くなり、食べ物がくさりやすくなるから
 - 2 細菌が増え、水分を蒸発させることができるから
 - 3 水分が少なくなり、細菌が増えにくくなるから
 - 4 細菌が減り、水分を増やすことができるから

2 宮原さんの手紙では、身近な食べ物について疑問に思ふたことを調べ、友達に知らせることにしました。次は、宮原さんの「フートの一部」と宮原さんが選んだ「資料」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

フートの一部

食べ物の保存について

食べ物は、細菌から腐りやすくなります。それが十年間にわたるものだと知りながら、十年もたつたものには食べられるかと聞くこと、塩づけして干した干し大根や、かんぴょうなどというところ、昔の人はよく干して食べ物を保存してきたのだと、祖母は教えてくれた。

疑問に思ふたこと

① 干し大根は、食べ物を保存する方法でよいのか。

② 干し大根の人は、食べ物を保存する方法をなぜ使ったのか。

③ 食べ物を塩づけして干したりする理由は、

④ 食べ物を砂糖づけして干したりする理由は、

理由は、

ア 昔の人が食べ物を保存する方法をなぜ使ったのか。

イ 干し大根の人は、食べ物を保存する方法をなぜ使ったのか。

宮原さん

3番が正答です。資料の「保存のふしぎ」に書かれている、食べ物が腐る原因や、食べ物を腐りにくくするための方法の答えを捉えたり、宮原さんの疑問に思ったことの答えになる内容であるということと捉えたりする力が付いています。

一 宮原さんは、「資料」を読み、ノートにまとめています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

【問題例②】 領域・内容 [第5学年及び第6学年]

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

イの「限(らず)」は、ほとんどの児童が書いていました。

アは「対象」、ウは「関心」が正答です。

アを「対照」「対称」、ウを「感心」と書いていた児童が多く、意味に合った熟語を書くというところに課題が見られます。

普段使わない言葉や、なじみのない言葉を漢字で書くことは難しいことです。読書に親しんだり、言語環境を整えたりして、語彙を増やすことが大切と考えます。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

ウ

イ

ア

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にイがぎらず多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもらいたいと思います。

そこで、地いきの人三十人を調査の **ア** たいしようとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

- 四 高橋さんは、「報告する文章」を書き終え、読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。
- (1) 高橋さんは、習っている漢字がひらがなになっているところがあることに気がつき、書き直すことにしました。「報告する文章」の——部アからウのひらがなを、漢字で正しいに書きましょう。

【問題例③】 領域・内容 [第5学年及び第6学年] C 読むこと

70字

40字

- 疑問に思ったこと②の答えになるように考えて書くこと。
- 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 四十字以上、七十字以内にとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※の印から書きましょう。とちゅうで行を変えなくて、続けて書きましょう。

② 昔の人が食べ物を保存する方法を考えなければならなかった理由は、

イ

「フートの一部」の「イ」に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

記述式の問題は、全部で3問ありました。どの問題も、約半数の児童が正解しています。

左の問題は、【問題例①】の文章を読んで答える問題です。正答例は「季節や天候により、食べ物が手に入らないことや、手に入ったとしても、そのままにしておく、くさって食べられなくなってしまうこともあったから。」です。【資料】から、昔の人が食べ物を保存する方法を考えなければならなかった状況などについて、言葉や文を取り上げて、まとめて書く必要があります。

【問題例④】 領域・内容 [第5学年及び第6学年] B 書くこと

〈正答例〉

公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされていたり、きん急のときにも使うことができたりするからです。

③ 公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあることがわかりました。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうだけではないと考えました。なぜなら、



1 公衆電話について

はじめに 高橋めぐみ

先日外出したときに、夜に電話をかけようとしたら、近くに公衆電話がなくて困りました。調べてみると、公衆電話は、わたしたちの生活の中で減っていきつつあるのかもしれないと、わたしは思いました。そこで、わたしの住んでいる地域を調査してみました。その結果、わたしの地域には、公衆電話がまだたくさんあることがわかりました。わたしが調べた地域には、公衆電話がまだたくさんあることがわかりました。わたしが調べた地域には、公衆電話がまだたくさんあることがわかりました。

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電気がどこにもない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながらないときに必要	3人
その他	5人

(2) 公衆電話の設置場所を示した地図

(3) 公衆電話の設置場所を示した地図

70字

40字

- 調査の内容と結果①の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十字以上、七十字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

高橋さんは、「3 調査の結果をもと考えたこと」の「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。

上の文章を読んで、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から、分かったことについて言葉や文を取り上げ、【報告する文章】にふさわしい表現を用いて制限字数内で書くという問題です。

書きたいことは伝わってくるのですが、上の条件のうち1つでも満たしていないと不正解とされてしまいます。内容が合っても、文末を「～から。」「～がある。」などとしている解答がありました。

1 高橋さんの学級では、生活の中で減ってきたことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いてある【報告する文章】です。これをよく読んで、あとの問いに答えます。

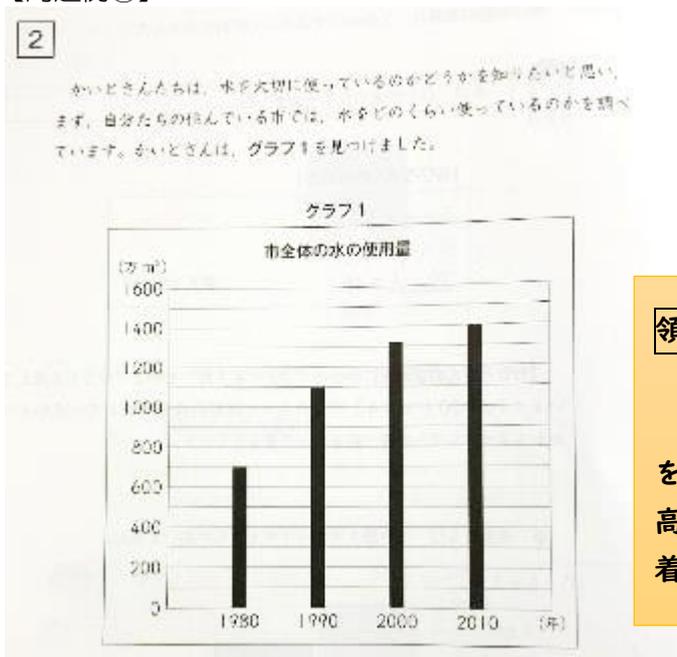


本校児童の傾向＜算数＞

平均正答率は全道・全国を上回る。

- 台形について理解している。
- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる。【問題例①】
- 示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用することができる。
- 示された計算の仕方を解釈し、被除数と除数にける数や被除数と除数を割る数を選び、計算しやすい式にして計算することができる。
- △ 二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述できる。【問題例②】
- △ 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除数に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できる。【問題例③】
- △ 示された除数の式の意味を理解している。【問題例④】

【問題例①】



領域・内容 [第3学年 D 数量関係]

グラフ1（棒グラフ）から、資料の特徴や傾向を読み取ることができ、全体的に正答率がとても高かったです。「棒グラフの読み方」については定着が見られました。

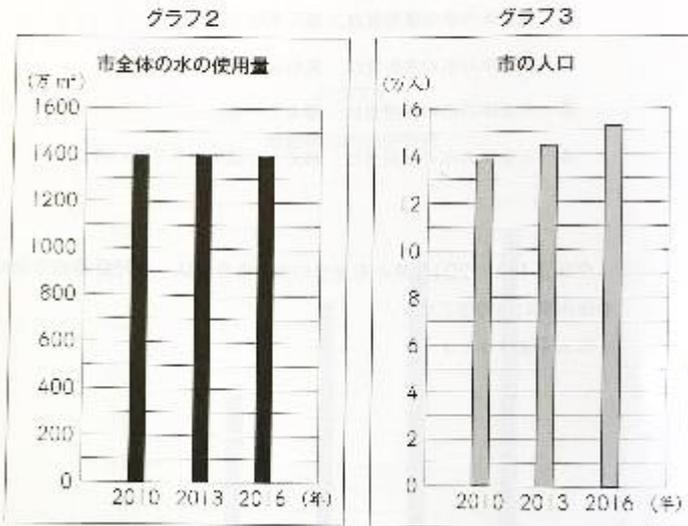
(1) 1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、グラフ1からどのようなことがわかりますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 市全体の水の使用量は、減っている。
- 2 市全体の水の使用量は、変わらない。
- 3 市全体の水の使用量は、増えている。
- 4 市全体の水の使用量は、増えたり減ったりしている。

【問題例②】

(9) 次に、かいとさんたちは、市全体の水の使用量には、人口が関係しているのではないかといい、グラフ2とグラフ3を見つげ、2つのグラフをもとに考えています。



私たちは、水を大切に使用しているといえるのでしょうか。



市全体の水の使用量はわかりますが、1人で水をどのくらい使っているのかはわかりません。



グラフ2とグラフ3を見ることで、1人あたりの水の使用量についてもわかります。

あやのさんが言うように、グラフ2とグラフ3を見ることで、2010年から2016年までの1人あたりの水の使用量についてわかることがあります。

2010年から2016年までの、3年ごとの1人あたりの水の使用量について、どのようなことがわかりますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、グラフ2とグラフ3からわかることをもとに、言葉や数を使って書きましょう。

- ① 1人あたりの水の使用量は、減っている。
- ② 1人あたりの水の使用量は、変わらない。
- ③ 1人あたりの水の使用量は、増えている。
- ④ 1人あたりの水の使用量は、増えたり減ったりしている。

領域・内容 [第3学年 D 数量関係]

[第5学年 B 量と測定]

(正答例)

番号: 1

理由: 1人あたりの水の使用量は、自然体の水の使用量÷市の人口で求めることができます。自然体の水の使用量は変わっていませんが、市の人口は増えています。だから、1人あたりの水の使用量は、減っています。

番号の2、3を選んでいる人の多くが、グラフ2の棒グラフだけを見て1人あたりの水の使用量と考えている記述が多かったです。また、市全体の水の使用量÷市の人口で求められることは分かって、計算の段階でミスが目立った人もいました。

単位量当たりの大きさは、言葉も難しく定着が難しい単元でもあります。

しかし、2つのグラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて記述していた人が多く、無回答率はとても低かったです。

【問題例③】

領域・内容 [第3学年 A 数と計算]

[第4学年 A 数と計算]

(正答例)

「わられる数」と「わる数」に同じ数をかけても、「わられる数」と「わる数」を同じ数でわっても、「商」は変わりません。

誤答の多くが、3つの言葉を使って、説明をしていないものが多かったです。また、「商」ではなく「差」という言葉を使って説明していた誤答が多く見られました。

しかし、同じ数をかけてもわっても答えは変わらない、ということは多くの人理解をしていました。

ゆいさんは、くり下がりのあるひき算を計算したときにもとにした考えをふり返って、次のようにまとめました。

【ゆいさんがまとめたこと】

ひき算では、
 ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、
 ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、
 差は変わりません。
 このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

ことねさんは、 $400 \div 25$ や $90 \div 18$ のようなわり算についても、計算しやすい式にすることができると思い、下のように考えました。

【ことねさんの計算の仕方】

$$400 \div 25 = \square$$

$$\downarrow \times 4 \quad \downarrow \times 4$$

$$1600 \div 100 = 16$$

変わらない

だから、 $400 \div 25$ の答えの \square は、16です。

$$90 \div 18 = \square$$

$$\downarrow \div 9 \quad \downarrow \div 9$$

$$10 \div 2 = 5$$

変わらない

だから、 $90 \div 18$ の答えの \square は、5です。

(2) ひき算について書かれた【ゆいさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。

下の □ の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

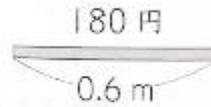
このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

【問題例④】

(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

問題

リボンを0.6 m買ったときの代金が180円でした。
このリボン1 m分の代金は、いくらですか。



1 m分の代金は $180 \div 0.6$ の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

A diagram showing the conversion of a decimal division problem to an integer division problem. It consists of two equations stacked vertically. The top equation is $180 \div 0.6 = \square$, where the square is shaded with diagonal lines. Below the top equation, there are two vertical arrows pointing down, each labeled with $\times 10$. The bottom equation is $1800 \div 6 = 300$. To the right of the equations, there is a curved arrow pointing from the top equation to the bottom equation, with the text "変わらない" (unchanged) written next to it. Below the diagram, the text reads: "だから、 $180 \div 0.6$ の答えの \square は、300です。"

$1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえますか。

下の **あ** から **え** までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

あ 0.6 m 分の代金

い 1 m 分の代金

う 6 m 分の代金

え 10 m 分の代金

領域・内容 [第3学年 D 数量関係]

[第5学年 A 数と計算]

あ、うの誤答が多かったです。どちらも除数の6や0.6に着目はしていますが、それぞれ除法の式の意味を誤って捉えています。小数の乗法及び除法の意味や考え方を理解し、式の意味を読み取ることが必要になってきます。

児童質問紙から

〈本校児童の傾向〉

- ◎規則正しい生活習慣が身に付いている。
- ◎将来の夢や目標を持って前向きに生活している。
- ◎学校のきまりを守っている。
- ◎人の役に立つ人間になりたいと思っている。
- 読書が好きである。
- 学校の授業時間以外に、勉強している時間（学習塾や家庭教師も含む）が短い。
- 計画的に家庭学習に取り組む児童が少ない。

調査結果を受けて

〈授業や学習に関すること〉

- ・基礎・基本の定着のため、全校的な取組を継続し、学び方の指導と併せて家庭学習の習慣化を図る。
- ・問題解決的学習や体験的な学習を計画的に行い、達成感を持たせる。
- ・時事問題や社会とのつながりを考える力を意識した取組を推進する。
- ・子ども達の家庭での学習時間や内容等の実態を詳細に把握するため、家庭学習アンケートを実施し、改善に向けた方策につなげる。
- ・学び合いや授業の振り返り、適用問題の充実をもとに、どの子も勉強がわかる・楽しい授業づくりに努める。
- ・スクールバス乗車時間前の放課後の時間や長期休業中の学習サポート（特別教室）を行い、補充的学習の充実を図り、学び漏れがないように指導する。
- ・全国学力学習状況調査の過去問題及びチャレンジテストを活用（日常の授業での活用、解き直しの実施）して、苦手分野の学習に取り組む。

〈家庭との連携〉

- ・改善した家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の習慣づけを図る。
- ・学校だよりや学級通信などを活用し、日常の授業実践の紹介や子どもたちのつまずきを共有する。
- ・TVやDVDの視聴時間を減らすための啓発活動を推進（川西ノーテレビデー等）する。